

年間第二十二主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 16：21 - 27

イエスは弟子たちに言われた。ご自分が必ずエルサレムに行って、多くの苦しみを受けてのこされ、三日目に復活することになっている。ペトロはイエスを諫め始めた。しかし、イエスは「私についてきたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。私のために命を失う者は、救いを得、それぞれの行いに応じて報いるものを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか」と答えた。

（二）カテキズムの響き：『カトリック教会のカテキズム』の番号# 363, 554-555, 609, 618, 678-679 ; YOUCAT #101 - 102, 157)

ペトロが、イエスをメシア、生ける神の子であると告白した時から、イエスはご自分が苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっていると弟子たちに打ち明け始められました。しかし、ペトロはこのことを受け入れず、他の弟子たちもこの言葉を理解できませんでした。事実上、変容はある高い山の上で、イエスは神の栄光を示し、ペトロの信仰告白裏づけられました。イエスはまた栄光に入るには、エルサレムで十字架を経なければならないことを示されます。イエスの人性は苦しみと死に臨んで、人々の救いを望まれる神の愛の自由で完全な道具となり、御父と御父が救おうとされる人間への愛によって、十字架の上で受難と死を受け入れられたのです。キリストは私たちのために苦しみを受け、その足跡に続くように模範を残し、弟子たちがそれぞれの十字架を背負って、ご自分に従うよう促しておられます。こうして、贖いの恩恵を受ける人々をご自分の贖いのいけにえに与らせようとしておられます。

キリストは永遠の命の主であり、世の贖い主であり、人間の行為と心とを最終的に裁く権利を十字架によって、御父からもらい、勝ち取られました。ところで、御子は裁くためにではなく、救うため、ご自分のうちにある命を与えるために来られました。これは靈魂の救いと関係があります。靈魂は、人間の命、人間のペルソナ全体を示します。また、人間の内部の最も奥深いもの、もっとも大事なもの、すなわち、人間を特別に神の似姿にするものをも指しています。神が与えた命の恵みを拒絶することで、おのおのはすでに自分自身を裁き、その行いに従って報いを受けています。そして、神が与える恵みを顧みなかった咎めるべき不信仰が断罪されることでしょう。隣人に対する態度が、神の恵みと愛とを拒否したか、或いは受け入れたかをあきらにするはずです。最後の日である審判の時には、人間の各自の行為と心の秘密があらわにされるでしょう。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#69 人間の中で靈魂と体は一つに結ばれることです。

#119 キリストの生涯全体が、御父の救いの計画を実現するために、人間の罪による苦しみと死を受け入れ、復活のによって、全人類を神と和解させていただきます。

#110 信仰宣言による「キリストは生者と死者を裁くために来られる」という意味：

135 - 復活の命と栄光がご自分の十字架によって捧げた愛と信仰を通して、実現します。

- 皆は各自の心の密かな思い、また、神に対する振る舞いと隣人に対する振る舞いは明らかにされ、それによって裁かれ、永遠の命という報いを受け入れます。

最後の祈り： 苦しみ人の希望である神よ、救いの言葉に力づけられ、感謝の内に祈ります。主の死と復活の恵みによって、十字架をともに担う力をお与えください。世界の災害人間の弱さ、生活の挑戦に向かい、愛の使命を背負うことができますように。